

2021 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	濱田 幸子
研究テーマ	『伊曾保物語』の江戸時代における受容
研究概要	『伊曾保物語』の寓話部の中で、どのような寓話にどのような教訓が添えられているのかを見ていくことで、賢人イソポの物語である『伊曾保物語』がどのような教訓書として江戸時代に受容されていたのか考察していく。また、江戸時代の書物の中で、『伊曾保物語』の寓話が多数取り入れられている『絵入教訓近道』は『伊曾保物語』の再編集本とも見られるが、それについても考察する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>江戸時代末の、為永春水による中本一巻一冊の合巻である『絵入教訓近道』に掲載の話の大部分は『伊曾保物語』によるものである。その話の内容、構成等を考察すると、『絵入教訓近道』が単なる教訓書というだけではなく、天保の改革期の道徳に沿った教訓書という形をとりながら、当時禁書であった『伊曾保物語』の再現をねらった書であることが見えてきた。現在その結果を論文にし、日本文学協会に提出している。</p> <p>また、『伊曾保物語』とは別に、教科書教材でもある今西祐行の『一つの花』の、一語一語の表現に着目した読み方についても研究し、以下の発表をした。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>単「今西祐行『一つの花』における「一つだけ」の意味についての考察」 表現と教育を語る会（2022年2月26日（土）、ハルカス 23階 IBU サテライト教室、口頭発表）</p>
3. 今後の課題	<p>これまでに、『伊曾保物語』の伝記部を取り上げ、『伊曾保物語』成立に関わる事情、人物について考察してきた。今後は、『伊曾保物語』の寓話部を取り上げ、『伊曾保物語』のそれぞれの寓話とそれに対応する『イソポのハブラス』の寓話を比較し、話（筋）として異なる部分と、寓意として異なる部分を分析し、何が違うのかを考察し、それによって『伊曾保物語』の編集者（制作者）、『伊曾保物語』の成立事情を明らかにしていく。さらに、『伊曾保物語』の伝記部を研究した際にあらたに課題として見えてきた、江戸時代に新たに出現した公事物語（裁判評定の物語）への『伊曾保物語』の影響についても考察していきたい。</p>